

# 報告

## 大規模改修工事の中で — 子どもたちと創り上げた工事中の保育 —

お茶の水女子大学附属幼稚園では、平成二十五年、園舎の大規模改修工事を行いました。現園舎は昭和七年に竣工しましたが、ここまで大がかりな改修工事が行われたのは初めてのことです。長年の要望が実り、念願かなっての工事でした。

工事の目的は、登録有形文化財に指定されている園舎の文化的価値を高めていくための補修です。また、安全で安心な園環境の整備を進め、生き生きした保育活動がより一層展開されていくための改善も目的としました。

準備段階を経て、実際に工事が行われたのは二学期から三学期にかけてでした。仮園舎に一時移転ということはせず、通常の保育を行いながら少しずつ

工事を進めていく、という方法で工事は行われました。工事期間及び主な工事箇所は、下の表の通りです。

工事中は、PTA室を職員室にしたり、遊戯室を保育室にしたり、一時的に登降園口を園庭の門にしたりなど、対応すべきことが次々に起こりました。

そのような中での保育をどうしていかうかと考え合う中で、「子どもたちと一緒に工事

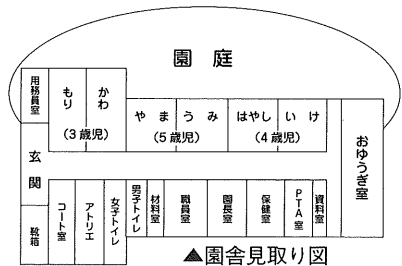
宮里 曉美  
(大学教員)

工期	期間	主な工事箇所
第Ⅰ期	10月中旬～12月初旬	4歳保育室・園長室・職員室・保健室・チャボ小屋・古物置
第Ⅱ期	12月中旬～1月中旬	3歳保育室・PTA室・資料室・材料室・トイレ・園長室・屋上
第Ⅲ期	1月下旬～3月初旬	5歳保育室・アトリエ・コート室・玄関・用務員室・園長室・屋上
第Ⅳ期	3月初旬～3月下旬	遊戯室・園長室・用務員室
第Ⅴ期	3月中旬～3月下旬	廊下・園庭(表面の土砂撤去等)

中の生活を創ることからスタートする」「子どもたちが感じたり考えたりすることにまなざしを向ける」という、いつも大切に思っている在り方を貫くことを確認し合いました。こうして始まった工事中の保育の一端を紹介します。

### 工事の始まりはチャボ小屋から

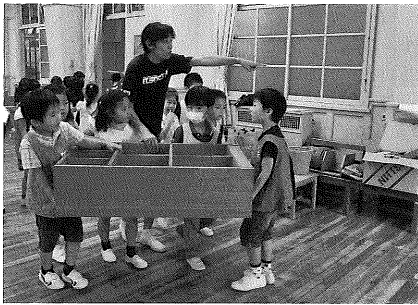
園舎のそばに立っていたチャボ小屋を、撤去することになりました。園庭にあるウサギ小屋を急ぎよチャボ小屋に改修し、チャボたちを引っ越しさせることになりました。引っ越し当日はあいにくの雨。子どもたちが傘の道を作って、チャボたちを新しい小屋へ連れていきました。



翌日、長らく親しんできたチャボ小屋とお別れです。職人さんたちが手際よく小屋を解体していきます。その様子に、子どもたちの視線はくぎ付けになりました。

### 遊戯室を年長組の保育室に

九月中旬、年長組は遊戯室を保育室にするために引っ越しすることになりました。「保育室から何を持っていく?」と相談することから始め、「大事なものをみんな持つていこう」と確かめました。



引っ越し当日、午前中は子どもたちが大活躍。重い段ボールや棚を協力して運び、本棚に絵本を



並べ、力を合わせて取り組んでいました。午後は引越し業者が大活躍。遊戯室が、年長二クラス合同の保育室になりました。広い部屋に幾つものコーナーができて、だんだん居心地が良くなっていきました。

### 工事の準備が進んでいく

工事中、廊下の床が傷付かないように、長い廊下にはベニヤ板が張られました。壁には保護ボードが張り巡らされ、雰囲気ガラリと変わりました。これまでより少し幅が狭くなったことで、廊下がさらに長く感じられました。廊下ではお店屋さんごっこがよく行われていましたが、工事中はあまり行われなくなりました。何か違う感じがしたのかもしれない。保護ボードは大きな絵を張ると美しく映えま



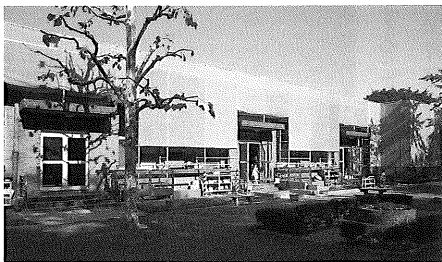
した。マグネットアートにも集中して取り組みました。

運動会終了と同時に

に園舎周りに足場が組まれ、白いシートで覆われました。

砂場前の水道はよける形で足場を組んでもらったので、工事期間中も、砂場で遊ぶことができました。

幼稚園中が、いよいよ工事開始、という雰囲気になっていきましたが、園庭で遊ぶ子どもたちを見ていると、あまり変わらない様子でした。園庭が変わらずにあったことが、大きな安定につながったようでした。



▲廊下でマグネットアートをする子どもたち

## 工事直前 職員室の電話ボックスで遊ぶ

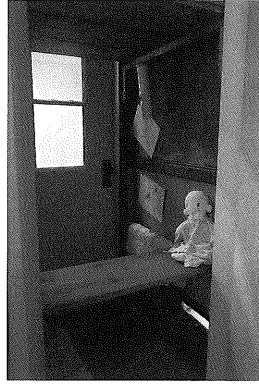
職員室には電話ボックスが二つあり、かつては隣の園長室からも入れるようになっていました。ここは物入れとして活用されてきました。

工事のために荷物をすべて出し、ガランとなった職員室。電話ボックスの中に入ることができる絶好のチャンスです。

工事が始まるまでの数週間、この場所を子どもたちに開放することにしました。子どもたちは、ドアを開けて通り抜けたり、小さな家に見立てて遊んだり、この時しかできない遊びを楽しみました。



▲電話ボックスで家ごっこ



▲人形を飾っている

そして工事が始まった!

↳ 格天井現れる ↳

工事が始まり園長室の天井を外したところ、昭和七年の竣工当時のものと思われる見事な格天井が出てきました。

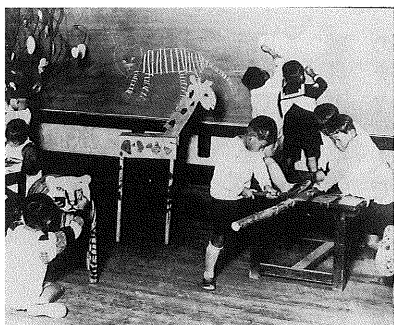
園長室は、歴史的な書物も保管している場所であり、歴史を感じさせる格天井はまさにぴったりで。格天井をこのまま生かしたいという願いが受けとめられ、園長室については計画を変更し、時間をかけて工事を行うことになりました。

床もじゅうたん張りから板張りに戻し、園長室全体の色調が落ち着いた木の色に統一され、これまで以上に落ち着いた雰囲気になりました。



▲格天井が出てきたところ

く 黒板の下に黒板 く



保育室の黒板を外すとその下に黒板が出てきました。その黒板を外すと、さらにもう一つ黒板が出てきました。一番初めの黒板は、コンクリートに紙を貼り、そこに漆が塗ってありました。

子どもたちと一緒に工事中の保育室に入らせてもらい、一番下から出てきた開設当時の黒板に触れてみました。しっとりとした感触です。書いてみると、チヨークの進みが滑らかで、とても書き心地が良かったです。

保育室にある長い黒板は、子どもたちが大好きな黒板です。それは、今も昔も同様だったようです。古い写真の中に黒板に絵を描いて遊んでいる写真がありました。二人の子が楽しそうに動物を描いています。この黒板に描いていたのだな、そう思うと、歴史が急に身近なものに感じられました。工事のおかげで出会えたうれしい感慨でした。

子どもたちは興味津々！

保育と工事が同時進行で行われている毎日は、とても刺激的で、工事の様子をのぞき込んで見ている子どもたちの姿がよく見られました。左の写真は、先生も一緒に工事の様子を見ているところです。見ないではいられない子どもたちの気持ちを受けとめて、一緒にのぞき込んでいます。



保育室の内装をしている様子を園庭側からじっと見ていた年少児が、若い職人さんに「一人でやっているの？」と声を掛けたことがありました。子どもながらに大変そうだなと思ったのでしょうか。心配げな子どもの言葉に、職人さんは、少し笑いながら「そうだよ」と応えてくれました。自然な形で出会い言葉を交わす、そんなかわりがいろいろな場で見られました。

工事中はアクセシビリティの連続でした。突然電気が消えてしまい、配電盤の所に駆けつけると、もうすでに工事の人たちが集まっていました。真剣に考え合い、対応している人たちの後ろに年長児の姿がありました。ずっと見続けていた姿から、何か大事なことを感じ取っているように思えました。あこがれとしての大人と出会っていたのかもしれません。



### 遊戯室で過ごす生活も定着　そして元の生活へ

年長組の子どもたちは、九月下旬から三月上旬までの期間、遊戯室を保育室として二クラス合同で生活しました。工事が進むにつれて問題になったのは、水場のことでした。そこで、遊戯室から園庭に出るテラスに仮設の水道を設置しました。初めて水が出た時の喜びは格別でした。蛇口の数は三つでしたが、みんなで譲り合い上手に使う姿に子どもたちの成長を感じました。



卒業まであと二週間という時、ようやく年長組の保育室の工事が終了。六か月ぶりに元の保育室に戻ることになりました。再び荷物をまとめ、懐かしい自分たちの保育室へ戻りました。保育室での生活が

再開した最初の日、帰りの集まりの時、担任が聞き  
ました。「昨日までと今日と、違うところある？」ど  
んな感じがする？」。すると、「何だか笑い声が少な  
い感じがする」という答えが返ってきました。年長  
組みんなで一緒に過ごしていた間の記憶が笑い声！  
と聞いて、心が温かくなりました。

### 最後に廊下と遊戯室 すべての工事終了

最後の工事は、遊戯室と廊下でした。特に廊下の  
工事は、春休みを待ちかねたように、急ピッチで進  
められました。

遊戯室には、念願の空調設備が、美観を損なわな



▲足場が組まれた廊下

い形で設置されまし  
た。ステンドグラス  
にはすべて透明の保  
護ボードを取り付け、  
窓枠も取り換えて色  
がブラウンに変わっ  
たことで美しさが際

立ちました。屋上パラ  
ペット（胸壁）のウサ  
ギとカメの鉄鋳物も復  
元しました。

工事中の保育は、今

しかできない体験の連続でした。「今」に向き合い、  
そこから保育を柔軟に組み立てていく、そのことの  
意味を改めて確認した日々でもありました。子ども  
たちの声に耳を傾け、保育者も応答し共に行動する  
保育、それは、どのような時でも変わらずに大切な  
保育の在り方なのだと思います。

さまざまな場所の工事が完了し、四月、新しい生  
活がスタートしました。大切に引き継いだものと新  
しく工夫したところが溶け合い、幼稚園は今、輝い  
ています。工事中の保育を子どもたちと共に創り上  
げたのと同じように、今度は、新しくなった幼稚園  
の生活を子どもたちと共に創る日々が、丹念に重ね  
られています。



▲遊戯室天井に空調設置